

氏名	永瀬 伸子 NAGASE Nobuko
所属 職名	人間文化創成科学研究科人間科学系 教授
学位	博士（経済学）（1995東京大学）
専門分野	労働経済学、社会政策
URL	<a href="http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Nagase_Results.html">http://www.soc.ocha.ac.jp/Site/Teacher_Nagase_Results.html</a>
E-mail	nagase.nobuko@ocha.ac.jp

### 研究者キーワード / Keywords

女性の労働供給  
仕事と家庭の両立  
社会的保護

Female Labor Supply  
Work and Family  
Social Protection

### 主要業績

永瀬伸子（2011）「2000年以後の男女の失業構造の分析?労働力調査のパネル構造を用いて構造変化を分析する?」『統計と日本経済』第1巻,第1号,2011年4月 91頁-111頁

永瀬伸子 1990年代から2000年代に大卒女性の就業継続行動はどう変わったか:27?33歳を対象とした聞き取り調査より 『生活社会科学』お茶の水女子大学、17号、2011年1月

永瀬伸子 「日本的雇用慣行と女性労働の課題?正社員女性がなぜ働き続けられないのか」 『週刊社会保障』法研、通巻2601号、2010年12月

永瀬伸子 男女賃金格差の解消に向けて:何が性中立的な制度か 『労働調査』労働調査協議会、通巻483号、42-47頁、2010年2月

永瀬伸子・縄田和満・水落正明「労働力調査」を用いた離職者の再就職行動に関する実証分析

### 研究内容 / Research Pursuits

文部科学省の近未来事業で、女性のキャリア形成と男性の育児参加、子どものウェルビーイングについて研究をしています。昨年度は、企業研究会で大企業の人事部の方々と、短時間勤務者が働きやすい人事制度と運用について研究会で討論しました。また総務省統計研修所の客員研究官として労働力調査の個票を用いたいくつかの研究をまとめました。競争力、経済生産性を担保しつつ、今の日本の雇用の在り方を女性もより参加できるよう大きく変えるにはどうしたら良いかを考えています。

In 2008, We have launched a five-year research project focusing on enhancing Japanese women's career attainment, increasing men's family involvement, and promoting social policies, including supportive changes in labor practices in firms, in the supply o

## ■ 教育内容 / Educational Pursuits

「労働経済学」「社会保障論」「労働経済学演習」、「労働論」等を大学、大学院で教えています。まずは標準的な労働経済学の講義をしています。雇用と労働時間、失業と職探し、離転職や引退、労使関係、雇用者保護の制度などについてです。「労働経済学各論」は通常はテーマを決めた授業をしますが、今年は人的資源管理論をテーマに講義としました。社会保障論は家族と社会保障について考えます。大学院では修士レベルでは学生の関心を中心として多様な分野の論文を読みました。博士は研究発表を中心とした授業を持ちました。また東京労働大学では企業の人事部等のサラリーマンを相手に女性労働の現状について講義をしたり、総務省統計研修所では客員研究官として統計を用いた計量分析をしています。

teach different level of classes for Labor Economics and Social Policy. Spring courses in general covers various topics in Labor Economics, such as employment, unemployment, job search, job turnover, while relating to institutional aspects of labor in Ja

## ■ 研究計画

文部科学省の近未来事業で、女性のキャリア形成と男性の育児参加について研究をしています。そのためには、学際的な研究が必要であり、また企業や職場、保育や家庭の方々との連携も必要だと思っています。競争力、経済生産性を担保しつつ、今の日本的雇用の在り方を大きく変えるにはどうしたら良いかを考えており、是非多くの方にプロジェクトに参加いただきたいと考えております。

## ■ メッセージ

女性が働くことと、社会的な制度のあり方、さらには社会規範や家族のあり方は深くかかわっています。仕事と家族の両立支援策は、1990年代から行われているように見えますが、なぜ実効を伴わないのでしょうか。なぜ日本の女性の出産離職は今でも大変高いのでしょうか。そのメカニズムについて考察するには、一方では、社会への洞察が不可欠です。具体的には、企業の賃金制度や雇用慣行、法律の枠組み、税制や社会保障制度などです。その一方で、文化的な土台や家族の価値規範の研究も必要です。制度を調べ、聞き取りをし、大勢の人々の選択行動のデータを計量的に分析することで、要因を明らかにするのが私の研究です。私の属する講座や大学院のコースには、この問題を考える幅を広げるに良い学際的な土壌があり、この問題を真摯に考える人には良い場所を提供すると思います。